

令和8年3月16日

令和7年度第2回環境・サステナビリティ委員会を開催 ～ 第26回 環境物流大賞 低炭素推進賞受賞企業 株式会社赤ちゃん本舗・株式会社啓和運輸による講演会を開催～

(一社)日本物流団体連合会(物流連)は、3月11日(水)、全日通霞が関ビル(千代田区霞が関)において、令和7年度第2回環境・サステナビリティ委員会(委員長:日本貨物鉄道株式会社取締役兼執行役員 経営統括本部長 高橋秀仁氏)を開催しました。

「環境・サステナビリティ委員会」は、物流の低炭素・脱炭素化や効率的な輸送システムの構築など、持続可能な物流の実現を目的として、諸課題の検討や情報提供を行っています。また、優良事業者・優良事例の表彰等を通じ、持続可能な物流体系の普及促進に取り組んでいます。

第一部では、株式会社赤ちゃん本舗 ロジスティクス専任取締役 吉田興輝氏および株式会社啓和運輸 代表取締役社長 片桐淳一氏を講師にお招きし、「小売り事業者と運輸事業者の協業による陸送から海上輸送へのチャレンジ」と題した講演会を開催しました。

講演では、第26回物流環境大賞「低炭素物流推進賞」を受賞した両社の共同取組について紹介されました。大阪～九州間の幹線輸送をトラックからフェリーへ転換し、さらに九州域内に4拠点を新設することで配送網を再構築した取り組みは、陸送距離 約66%削減、CO₂排出量 約68%削減という大きな成果を上げています。

また、ドライバー不足や店舗回収物流の手配といった課題に対し、荷主と物流事業者が緊密に連携し、現場知見と経営判断を結びつけながら取組を進めたプロセスが詳しく説明されました。特に、物流体系の変更に向けた社内調整の難しさや、現場で直面した課題を乗り越えていった経緯など、取り組みにあたっての苦労や現場でのリアルな声が共有された点も印象的でした。今回の取り組みが成功した要因の一つは、多くの企業が他業務と兼任のロジスティクス担当を置くなかで、ロジスティクス”専任”の取締役を置いて社内の部門間や経営陣への「翻訳」役を担えたことであると、

講演後は活発な質疑応答が行われ、参加者からはモーダルシフト手配の実務面や拠点再配置の効果や、荷主と物流事業者の関係性などに関する質問が寄せられ、盛況のうちに終了しました。

第二部の委員会では、環境・サステナビリティ委員会の令和7年度活動報告として、

1. 第26回「物流環境大賞」
2. 「日本物流大賞」の創設
3. グリーン物流パートナーシップ会議
4. カーボンニュートラル情報交換会
5. 普及啓発活動

の5点の活動状況について事務局より報告しました。

続いて「令和8年度活動計画(案)」について、

1. 第1回「日本物流大賞」表彰
2. グリーン物流パートナーシップ会議
3. カーボンニュートラル情報交換会
4. 表彰事例の普及・啓発活動

の4点を実施していく案が事務局より示され、原案通り承認されました。

今後も本委員会の活動を通じ、物流業界全体での持続可能な物流の実現を目指して、推進してまいります。

事務局 島



講師

株式会社赤ちゃん本舗 吉田氏
株式会社啓和運輸 片桐氏



委員会で議事を進める高橋委員長



講演会全景